

住所 坂井市春江町江留上大和4-8 TEL・FAX 51-0829
E-mail edomekami-cc@city.fukui-sakai.lg.jp

発行：江留上まちづくり協議会 総務広報部



4年ぶりとなった
サマーフェスタ。大勢の
人で賑わい楽しいフェスタ
になりました。

わなげ・スマートボール・スライ
ムづくり・プラ板・ひもひき。児
童館の先生・ジュニアリーダーも
応援にきて、終日賑やかでした。
お世話くださったスタッフの皆様
ありがとうございました。



第2回 江留上サマーフェスタ

7/9 (日) 開催





あつまれ!
かみむらラジオ体操会

雲ひとつない青空の下、4年ぶりの『あつまれ!かみむらラジオ体操会』が開催されました。大勢でするラジオ体操。久しぶりの楽しい朝でした。



交通安全協会の方も参加

**かみむら
カフェ**

《かみむらカフェ》は江留上まちづくり協議会わくわくいきいき倶楽部高齢福祉活動のひとつです。毎週火曜日13:30からはじまります。

卓球バレー・脳トレ・簡単な体操・お茶会・江留上の方なら誰でも気軽に参加できます。月に一回程度イベント日として楽しい催し物を企画しています。気軽にご参加ください。

参加は
無料



若かりし頃の衣装を着てのファッションショー皆さん、あの頃にタイムワープしましたね♡



交通安全のお姉さんによる紙芝居。歩行者として勉強します。

わくわくいきいき倶楽部 高齢福祉活動部

- ★ 9/3 防災研修
- ★ 9/23 ちりめんの里まち歩き
- ★ 11/10 カンタケ作り
- ★ 11/25 イルミネーション点灯
- ★ 12/15 お正月寄せ植え

**江留上まちづくり協議会
～今後の予定～**

10/8(日)に予定しておりました江留上地区敬老会は中止し昨年同様、敬老記念品を75歳以上の方に配布する事になりました。催し物を楽しみにされていた方には大変残念ではありますが皆様が一同に集える日まで、お元気ではつらつと過ごされますようお願いしております。



『手ごねで作るハードパン』



『歪みを整える体操』



『春の中華』

とても楽しい、まだまだ続けたい！もっと教えて欲しい！という声があがり 自主講座が立ち上がることになりました。「歪みを整える体操」はサークルの名前を「ひまわり」として引き継ぎ前野先生より体操を教わります。若干名の会員募集をしますので興味のある方お気軽にコミセンまでお声掛けください。



『アンコール中華』

コミセン講座（後期）では
・刺し子で作る数珠入れ 11/2・16・30
・アンコール企画 手ごねで作るハードパン 11/18 12/2
・四季の彩り 秋の練り切り 10/21
3つの講座を予定しています。
詳しくは9/27発行の坂井市広報・コミセン
いんふおでお知らせします。



刺し子で作る数珠入れ

江留上子ども教室

写生会 7/29・31 開催



わらび餅作り 8/4 開催

ひたすら混ぜる！混ぜる・混ぜる・混ぜる
時折「もう疲れた〜」「手、だるい〜」との声も
聞こえましたが、出来上がりはバッチリ。家族と
食べよう！と大喜びで持ち帰りました。お味の方
はいいかがでしたでしょうか？



～子ども教室予定～

- 10/28 ハロウィン
- 12/23 クリスマス

詳しくはコミセンいんふおや学校で
配られるチラシでお知らせします。



夏休み子ども教室で写生会を開催しました。はじめての試みの宿題教室でしたが、11人の申し込みがあり、楽しく開催できました。江留上の宝である旧島崎家を思い思いに描いて、とても満足できる作品になりました。

パ ンダ公園をデザインする

わあくしょっぷ

WS

アイデア募集中

かみむら物語

コラム0.「プロローグ」

今回から、コラム『かみむら物語』という形で、『コミセンだより』に地元の歴史や防災・防犯の情報を掲載することになりました。江留上の歴史を縦糸に、地元の風土・産業・出来事を横糸に、時々話が脱線するかもしれませんが、地元の産業・絹織物のように、物語が紡いでいけたら良いなと思っています。歴史（HISTORY）の中には物語（STORY）が隠れています。江留上の歴史にはどんな物語が隠れているのでしょうか？このコラムを通し、江留上の物語にふれてみて欲しいと思っています。

コラム1.「福井平野の成り立ち」

江留上一帯は、周囲を水田に囲まれた住宅地・商業地と言えるでしょう。近隣に大型の量販店の出店が相次ぎ、春江から森田にかけて住宅建設の人気地区になっています。

地形は福井平野の中心に位置し、高低差がありません。昔から「春江で一番高い山は春江小学校の築山」という冗談があるくらい平坦です。今回から数回に分けて、この地形の成り立ちを探ってみましょう。



図1. 現在の標高図

地球は約10万年程度で、比較的温かい時期（間氷期）と寒い時期（氷期）を繰り返しています。最終の氷期（約7万年前～1万年前）の最も寒い時期（約2万1000年前）の地球の年平均気温は、現在よりも約4～13℃低く、地球の中緯度～高緯度地方が氷床に覆われたことから、世界平均の海面は、120～125m程度低下しました。現在の福井平野の場所は、その影響より河岸段丘（階段状の谷型地形）とその谷底には河川が流れる平野になったと想像されます。

約2万年まえから1万年前にかけて、地球の平均気温は約6℃上昇し、温暖な気候になっていきました。氷床などが解けたことから海面は125～130m上昇、現在の海面よりも5～10m高い状態になりました。この海面上昇を縄文海進といいます。これにより、現在の福井平野は大きな入り江（湾）に変化しました。

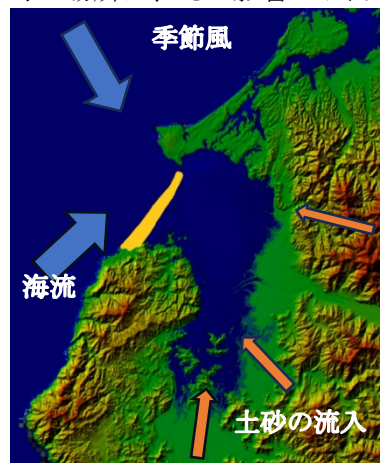


図2. 入り江から湖へ

図1は現在の標高図です。濃い青色が標高0～5m、水色が標高5～10mです。濃い青から水色にかけての部分が、海面上昇により巨大な湾になったと考えられます。

湾から海に流れ出した砂礫（砂や小石）が海流と、冬の強い季節風によって、湾の入り口に堆積し、湾は巨大な湖に変わりました。この湖には正式名称はありませんが、仮に古福井湖と呼ぶことにします。

地表の岩石は、自然の力や生物の力によって風化・分解し細かな粒子に変化します。また、河川の上流では、急流のため岩石は崩され流され、川の中流には角の取れた丸い石が、下流には丸い小石が堆積し、さらにその下流の海・湖には、砂、シルト（細かな砂）、粘土などが流されて堆積していきます。

現在の九頭竜川は、竹田川、足羽川、日野川等、大きな河川が1本に集まり、大量の土砂を日本海に運んでいます。古福井湖にも、嶺北地方の北部一円の山間から大量の土砂が流れ込み、湖底には、砂・シルト・泥が急速に厚く堆積していました。

3800年前～2300年前、再び寒冷化が進み温暖な時代は終わりました。再び海面は下がり、現在とほぼ同じ高さに変わりました。古福井湖内も水位が低下し、広大な湿地や浅瀬、沼が広がる平野になりました。（このような平野を沖積平野といいます）

では、江留上の地下はどうなっているのでしょうか？図3は、江留上コミセンの大ホール建設前に行った地盤調査の時の資料です。ボーリング柱状図という地中の地質を調べたものを分かりやすくするために簡略化しました。左の数字は地上からの深度、右の部分は土質です。現地から約1m地下までが盛土つまり沼地を埋め立てた時の土砂、約1m～約24m地下までが粘土・シルト・砂の層であり、古福井湖時代からその後の湿地時代に堆積した物。約24mより地下の部分は砂礫層で、主に玉石です。この部分は河川堆積物であり、川の中流～下流であったことの痕跡です。

江留上に地名に含まれる『江』には、入り江、大きな川という意味があり、水にかかわりの深い漢字です。福井平野が水の力によって形作られ、現在の姿になったことに思いはせてみてはいかがでしょうか。

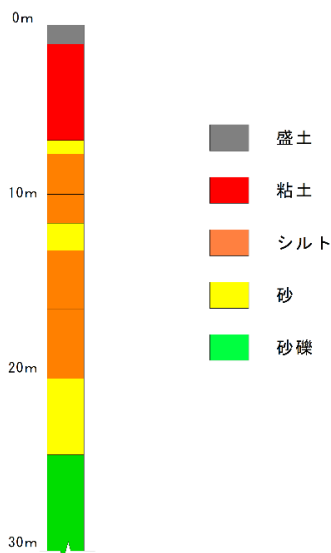


図3. 江留上コミセンの柱状図